

## 1 はじめに

本校が目指す学校の姿、スローガンは、「人がつながり ともに創る みんなの学校」である。このスローガンには、コミュニティ・スクールの実施に伴い、地域と共に創る学校というこれからの学校の姿とともに、「生徒たちが自分の手で学校を創り、地域の未来の担い手となっていく」という育てたい生徒の姿が示されている。

一方、学校事務職員という立場としては、目指す学校の姿を共有しつつ、「チーム学校」の一員として、教員とは異なる専門性を発揮しながら、学校運営の課題を解決することが求められている。

そこで、本年度の研究テーマを「子どもの願いに寄り添った学校施設の整備・予算の編成と執行」とし、子どもたちの豊かな学びに資するべく実践を行った。

また、災害が頻発している社会情勢から、「子どもたちにとって安全で安心な学校づくり」というテーマは、本校のみならず、全ての学校に共通する課題である。そのため、学校事務の共同連携グループという枠組みによる研修会を企画し、学校事務職員の視点から、リスクマネジメントを図った。

## 2 実践の内容

### (1) 子どもの願いに寄り添った学校施設の整備・予算の編成と執行

#### ① 予算編成に伴う子どもアンケートの実践

子どもの願いに寄り添うべく、学校施設・予算に関する生徒へのアンケートを実施し、学校の課題解決に取り組んだ。子ども目線での予算獲得に向けて、各教室を回り、学校事務職員の仕事への理解を得ながら、子どもアンケートをお願いした。昨年度までは手書きで記入して提出を促していたが、今年度から生徒たちが持っているタブレットを利用してGoogle フォームでアンケートを実施した。スローガンにある「人がつながり ともに創る みんなの学校」のもと、生徒・教職員の思いを、予算要望書にして提出することができた。

本校に着任してから4年目であるが、子どもアンケートからの要望については、市教育委員会でも必ず対応していただいている。



## ②生徒会と共に予算を考える

今まで生徒会会計は、教員が予算・執行・決算を担当していたが、教員が子どもと向き合う時間の確保と生徒たちが自らの手で学校づくりを行っていくため、学校事務職員が担当している。予算編成や執行状況、決算書作成には生徒会の会計の生徒とともに、どうすれば有効に活用できるか話し合いを持ち、生徒の興味・関心を高めることができた。



## (2) 学校事務の共同連携グループでの学校防災について考える

学校事務職員の視点から自校の防災対策を考えるために、富岡小中学校を視察し校長先生に講話をいただいた。津波が迫っている状況下での子ども・教職員の行動や、甚大な災害・困難について改めて知る機会となった。当時小学生として震災を経験したグループ員もおり、それぞれから命の大切さを伝え守っていくという使命を強く感じた。他のグループ員も、学校事務職員としての目で日頃の点検や避難経路を確認する必要性を強く感じていた。



## 3 実践の成果

予算編成に伴う子どもアンケートについては、「チーム学校」の一員として生徒の思いを要望書に反映することができた。また、子どもたちに結果を周知したことにより、予算編成の参画への実感を子どもたちに与えることができた。そして、子どもたちの学習環境の改善、カリキュラムマネジメントへの参画、教職員や関係機関との連携・協働など、大きな成果を感じることができた。これからも子どもたちに寄り添った、安全で安心な学校づくりのために全力を尽くしたい。

学校事務の共同連携グループでの学校防災について学ぶ研修については、視察後すぐのアンケートでは、災害に直面する危険性を考え、対応できる備えが必要だと感じ、緊急時の動きを常日頃からシミュレーションしておくことが重要だと感じた。そして安全で安心な学校づくりのために、学校防災について深く学ぶことができた。

これからも、市内の学校事務の共同連携グループと情報を共有し、二本松市で統一すべき点を明確にしながら、学校事務の効率化そして子どもの学びの支援に向けた課題解決に向けて、学校事務の共同連携グループのまとめ役として、市教育委員会と更なる連携を図っていきたい。

## 4 課題及び今後の取組の方向性

これからの学校事務職員は、学習指導要領などの教育的知識とコミュニケーション能力が必要だと感じる。今後、働き方改革が進んで行く中、教員が子どもと向き合う時間の確保を常に意識し、授業以外の業務に積極的に関わっていききたい。

部活動については、特技を生かし卓球部の指導に加わり、教員が子どもと向き合う時間の確保を常に意識し、来年度の目標である県大会出場に向けて、未来への夢や希望を子どもたちに与えられる顧問として頑張っていきたい。学校事務職員ではあるが、チーム学校の一員として、これからも子どもたちのために、指導力向上のための研鑽に励んでいきたい。